

屋根の下で鍋味わう

高岡なべ祭り開幕



クルン高岡では、庄川の「高岡すり身」つおか、水見カレール学会が海サケや高岡産のホレンソウが登場、昨年に続いて高岡の食文化を象徴する昆布のすり身を、かじり鍋を提供した。クルン高岡のテナントもなべ祭り運動し、ワゴングルメを企画、珠洲市や長野県須賀川市など飛騨能登観光都市懇談会が特産品を販売し、地下街に設けられた食事場も人であふれた。高岡大周辺では、地元海鮮を使った「海鮮チヨリ鍋」が人気を集めた。穴水町観光物産協会の会員は炭火焼きのたまご500個を販売し、雪巾着、ホカマツリを販売し、御旅通りでは、高岡市シルバー人材センターのスタッフが焼き芋や手作りせんざいを販売した。鍋は2日間で約3万食が販売される。最終日の15日は午前11時、午後4時に開かれ、当日券は1枚350円となっている。

クルン、初めて会場に

クルン高岡では、庄川の「高岡すり身」つおか、水見カレール学会が海サケや高岡産のホレンソウが登場、昨年に続いて高岡の食文化を象徴する昆布のすり身を、かじり鍋を提供した。クルン高岡のテナントもなべ祭り運動し、ワゴングルメを企画、珠洲市や長野県須賀川市など飛騨能登観光都市懇談会が特産品を販売し、地下街に設けられた食事場も人であふれた。高岡大周辺では、地元海鮮を使った「海鮮チヨリ鍋」が人気を集めた。穴水町観光物産協会の会員は炭火焼きのたまご500個を販売し、雪巾着、ホカマツリを販売し、御旅通りでは、高岡市シルバー人材センターのスタッフが焼き芋や手作りせんざいを販売した。鍋は2日間で約3万食が販売される。最終日の15日は午前11時、午後4時に開かれ、当日券は1枚350円となっている。

平成29年1月15日 富山新聞(朝刊)



熱々の鍋味わう準備中

日本福高岡なべ祭りに合わせ、高岡市シルバー人材センターのアンテナショップ「シルバーショップたかおか」は14日、同市御旅通りの商店街の同店前で「熱々のせんざい」や焼き芋を販売した。せんざいを100円限定で販売。サマモ「五郎金時」せんざい、焼き芋「こちらも温まる」シルバー人材センターが販売で作った焼き芋を売るコーナーも設け、友人が訪れた同市大町の主婦、吉田まきさんは「懐かしい味を口にした、おいしいに味わった」とお話ししていた。15日は午前10時から午後2時まで営業し、焼き芋のみ販売する。

平成29年1月15日 北日本新聞(朝刊)

初の女性限定イベント

高岡市シルバー人材センター

18日開催 仕事のやりがい語る

高岡市シルバー人材センターは18日、女性向けの交



イベントを担う高岡市博労本町

派遣充実へ会員増目指す

流イベントを開催する。景やして派遣を充実させる。気の上向きを背景に、清掃 担当者は「元気の女性パワーや子育てなどの仕事の受注」で地域を支えたいと、参加を呼び掛けている。

イベントは「レディースデー」と題し、60歳以上の市民を招き、お茶を味わいながら女性会員が活動のやりがいなどを伝える。手品師のアレマー玉井さんや講師を招いてマジック教室

を開き、参加者同士で親睦を深めてもらう。同センターの会員数は、昨年末で1040人で、このうち女性は423人となっている。定年の延長や再就職する高齢者の増加などが影響し、会員数は2011年から減少傾向で、女性会員も減り続けている。一方、企業や施設内の清掃、家事手伝い、介護、育児などの仕事で、女性を対象とした募集が年々増加し、人手が足りず依頼を断ることが増えている。センターはニーズに応えるため、今年から女性の勧誘に力を入れることにした。イベントを担当する高次美晴経理・業務係長は、会員にとってシルバー人材センターの活動は収入確保だけでなく、生きがいづくりに

平成29年1月7日 富山新聞(朝刊)

高岡市シルバー人材センター

女性笑顔の輪 会員増に弾み

初の交流企画、市民60人参加



手品やダンスで交流する参加者—高岡市ふれあい福祉センター

高岡市シルバー人材センターは女性会員の増加を目指して18日、同市ふれあい福祉センターで会員と市民に初の交流イベント「レディースデー」を開催した。60歳以上の女性約60人が参加し、マジックや手品で親睦を深めた後、会員から活動のやりがいを聞き、関心深めた。同人材センターは、笑顔の広がりがイベントを機に、会員増へ弾みになることを期待した。

高岡市シルバー人材センターの会員数は昨年未だ現在1040人で、このうち女性は233人が所属している。一方、最近では景況改善を背景に、清掃や子育てなど延長や再就職する高齢者、女性を対象とした仕事の受注増加などが影響して新たな会員が集まり、余体数も女性会員も減少傾向となっている。

イベントの前半は、地元の手品師「アレマー玉井さん」によるマジック教室が開かれ、輪ゴムやカード、ダンスを交えた手品を学び、披露合っ笑顔で盛り上がった。後半は、参加者が女性会員と語り合ったり、手品師「アレマー玉井さん」のトークショーや、同市の種類や職種のほか、同市御旅通りの「シルバーショップたかおか」で、会員手作りの作業服を販売していること、活動内容を紹介した。同センターの高岡事務局長は「たくさんの方に参加いただき、気軽に交流をきっかけに気軽に参加してほしい」と話した。

女性会員獲得へ レディースデー

市シルバー人材センター

高岡市シルバー人材センターは18日、同市博労本町のふれあい福祉センターで初の女性限定イベント「レディースデー」を開催した。



高岡市博労本町

「レディースデー」を企画した。非会員も参加し、マジックを学んだ。会員は2010年に約300人だったが、現在は423人と減少している。女性会員は423人と、会員数が伸び悩んでいるという。介護や子育て支援、清掃など、女性の活躍が求められる仕事は多いことから、女性会員の増加を目標とした。同センターは、女性会員の増加を目標として、今年から女性の勧誘に力を入れることにした。イベントを担当する高次美晴経理・業務係長は、会員にとってシルバー人材センターの活動は収入確保だけでなく、生きがいづくりに

平成29年1月19日 北日本新聞(朝刊)

平成29年1月19日 富山新聞(朝刊)

会員、市民 竹垣根作る

砺波市シルバー人材センター

砺波市シルバー人材センターの竹垣根作り講習会は25日、同市高道の市シルバーワークプラザで開かれ、

会員3人を含む60歳以上の男女14人が取り組んだ。

同センターは活動を広く知ってもらうため、会員だ

けでなく市民も対象に企画し、講師は会員2人が務めた。今年が3回目となる。

参加者は、目隠しにもなつて垣根越しの風景が楽しめる「四ツ目垣」の制作に挑戦し、



▲
参加者一砺波市高道の市シルバーワークプラザ
竹垣根を作る

竹の組み方や縄の締め付け方を学んだ。